

社会福祉法人 京都光彩の会 光彩だより 令和6年7月号



今月のもくじ

ご寄稿いただきました！第2弾

「振り返って…かかわりの中で教えていただいたこと」

法人事務所 紹介

後援会・ご寄付のお礼

地域交流



ミレニアムライオンズクラブ 高瀬川清掃活動報告

3月17日、ミレニアムライオンズクラブの高瀬川清掃に参加させていただきました（法人全体で19名参加）。今回は、先斗町を中心御池通までの作業に取り組みました。

作業後、ミレニアムライオンズクラブの方から、イワシの土佐煮をお土産として頂戴しました。いつもながら、細やかなお心遣いに深謝致します。

「かれん工房と西山高原工作所の発展的統合」

京都光彩の会の名付け親は、家族会会長だった木村桂三さんです。空海や最澄が遣唐使一行として唐に学んだ頃、都の長安に杜牧（とぼく）という詩人がおり、「雲」という詩を書きました。拙訳すると、「一日中うつとりと雲に見とれていた。夕陽に映えるひとひらの雲がとても可愛い。晴れわたった空のどこからこの雲はやつてきたのだろう。」という詩です。その中の、「可憐光彩一片玉」から、可憐↓かれん↓家連へと連想を巡らせ、家族と当事者の希望となる福祉サービス事業が寛やか光に包まれるようになると願つて、木村さんは命名されました。「ワークステーションかれん工房」も同様の想いが込められています。かれん工房は就労継続支援A型を展開したことともあり、地域の人たちとも協働し、常にチャレンジ精神を發揮して、今日に続く斎藤タ子さんを中心の運営に至っています。これまでの、上村さんはじめ戸田さん、中島さん、佐々木さんらの労を多としたいと思います。

一方、「西山高原工作所」は、京都成章高校から曲がりくねった山道を二キロ登り、山上に開けた西山高原アトリエ村の一角に、石神さんの発案で私を運営委員長にし共同作業所として誕生しました。冬は道が凍つて登れません。廣瀬幸二郎さんらが大変な苦労をされました。不便さと小規模通所授産施設移行要件不適格ということがあつて五年程で現在地に引っ越し、当法人に統合しました。廣瀬さん、関口さん、松井さん、竹内さんらがとても丁寧に利用者に接しておられました。

この歴史も文化も違う二つの事業所が、今年度さまざまな事情で統合することとなりました。利用者にとっても法人にとつても試練ですが、両者の強みを活かせるようにみなさんと力を合わせたいと思います。

社会福祉法人 京都光彩の会
理事長 加藤 博史

巻頭言

ご寄稿いただきました！第2弾！

「振り返って…かかわりの中で教えていただいたこと」



瀬尾クリニック
藤 弥生子さん

今年四月、精神保健福祉法の改正がありました。思い返せば、私が精神科病院に就職した当初は精神保健法の時代でした。法律についても思うところはたくさんありますが、ここでは少し昔話をしたいと思います。

私が初任者の頃、当時は精神障害者が受けられる福祉サービスは殆どなかったと言つても過言ではありませんでした。そのような中四十年近く入院しておられたAさんという方の退院支援にかかわらせていただいたことがあります。この方とのかかわりは、私の原点であり、たくさんのエピソードと多くの示唆をいたしました。退院支援を始めたとき、五十代のAさんは知的障害と統合失調症、難病も患つておられました。十代後半に入院して以来、退院したことなく、年に数回、実家に外泊をして過ごしておられました。長年の主治医が退職したこと機に、新しい主治医のもと、精神症状のほとんどなかつたAさんの退院支援に

取り組むこととなりました。当初、退院したいですか？と聞けば、「退院なんかしたくない。」と返事が返つてきました。しかし、何かしてみたいことがありますか？と聞くと、「いつでもいいから、外来で薬もらつてみたいんや。」とおっしゃいました。これがきっかけで始まつた退院支援でした。

Aさんの退院支援は当初、ご家族のもとへと考えていましたが、紆余曲折あって、結局、アパートでの独り暮らしを目指しての退院が目標となりました。支援が進んでいく中で、個室を使って一人で寝る練習、鍵を閉める練習など様々な方法をとりましたが、ついにアパートを借りて初めて外泊することになりました。しかし、この一歩がなかなか踏み出せずAさんも周囲も行き詰まっています。そこで、病棟の主任と私が交代でAさんの新しいアパートに泊まりに行きました。とにかくアパートで泊まる体験してもらい、怖くないのだとわかつてもううには、だれかと一緒に泊まることが必要でした。現在ならば利用できるサービスもあつたでしようが、当時、そのような資源はありませんでしたから、今、私たちが行かな！という感じでした。

サービスの質や量の平等性や均一性といつたことがよく言われます。もちろん、このことも大事なことですが、『今、この人と私だからできること、し

なくてはならないこと』『here and now』を大切にして、タイミングを逃さないということもとても重要なことだと教えられました。

最初のアパートの大家さんには病気のことは言わずに入居しましたが、真面目で優しいAさんを、いつの間にか障害の部分も含めて、“アパート住人の一人”として接しておられたと思います。また、日中活動の場を確保するため、Aさんのアパート近くを歩きまわり、小さなお店の短時間の清掃の仕事の張り紙を見つけました。最初は戸惑つておられた店主も、長い入院生活で習得したAさんの清掃の能力に目を見張り、数日のお試しが期間を経てアルバイトとして雇つてくれました。最初は私もついて行きましたが、その内、一人で行けるようになり、清掃が終わるとお茶とお菓子をいただいて店主と楽しくおしゃべりをして帰宅するようになりました。また、銀行等のATMを使うことのできないAさんは、持ち前の笑顔とコミュニケーションで、窓口のスタッフと良好な関係を築き、出金用紙の記入を手伝つてもらうことができました。食事についても、アパート近くのスーパーでどのような総菜が売っているのか、また、一人で入ることができる食堂はどこかをリサーチし、一緒に行って買い物をする、ご飯を食べ、お店の人と顔なじみになり、Aさん

が困った時に助けてもらえるように関係を築いていきました。今ならば、グループホーム、デイケア、就労支援施設、訪問介護、自立支援事業等々、すぐにサービスが組まれたと思いますが、あえて言うならば、『フル活用すべきは、地域にある当たり前の資源』ということもAさんに教えていただいた大切なことだと思っています。

まず障害ありきではなく、Aさんという一人の人の魅力に引き付けられ、周りの人が自然と手を貸す…このような姿があつたように思います。もちろん、少しのお膳立てが必要でしたし、たくさんの困難にも直面しましたが、ここではあって、地域で生活するAさんを地域の人たちが当たり前にサポートしてくださつていたことに言及したいと思います。

昔は良かったなどとは全く思っていませんし、今の制度やサービスが充足しているとも思いません。もつと多くの選択肢や柔軟に活用できる仕組みが必要だと痛感する日々でもあります。しかし、少なからず使えるサービスが選べるようになった中で、支援する私たちが、今あるサービスをパッケージングするだけのような安易な支援に陥っていないかを見直す必要があるのでないかと思うのです。

その方の持てる力と地域の持てる力をコラボさせフル活用するという観点が、

法人事務所が移転しました！

京都市朱雀工房・支援センターなごやか・なごやかサロン



**COCO・てらす
正面玄関**

※事例は、個人を特定する情報を極力削除または再構成したものです。



事業所のパンフレットや光彩だよりはこちらで配布しています。

・朱雀工房
・支援センターなごやか
・なごやかサロン
事務所受付

施設紹介



静養室



面接室



多目的室



**朱雀工房 作業室
なごやかサロン**

後援会のお礼

京都光彩の会では、『精神障がいのある人たちが、ふつうの市民として、地域で暮らし、働き、社会に参加していくことを支援する』ことを目的に、各事業の運営や計画実施を行っていきたいと思います。

趣旨に賛同いただき、後援会に加入いただいた皆様、誠にありがとうございます。皆様のお気持ちを受けて職員一同、今年度も事業運営に邁進して参りたいと思います。

また今後も新規に法人の活動にご賛同いただき、ご支援いただける方々のご加入も隨時承っておりますので、なにとぞ協力のほどよろしくお願ひいたします。

利用者大募集!!

就労 移行支援 就労 繼続支援B型

京都市朱雀工房、西山高
原工作所では、上記の利
用者様を募集していま
す。お気軽にご相談くだ
さい。

広報委員会 委員

田中 稔一（支援センター「なごやか」）
植田 真由（支援センター「なごやか」）
高橋 恒明（京都市朱雀工房）
佐々木 瞳（ワーカステーションかれん工房）
兵井 貴人（西山高原工作所）
松岡 莜以（グループホート賀陽・山ノ内・光）

ご寄付のお礼

この度、新施設移転のための特別ご寄付にご協力いただき誠にありがとうございました。

いただいたご寄付は、新施設への移転費用の一部や今後の施設運営に活かしていきたいと思います。

社会福祉法人 京都光彩の会

理事長 加藤 博史 後援会長 岩崎 隆二

ご寄付をいただいた方

中川 慶子様



編集後記

私事ですが、この法人に入職して一年が経ちました。一年目の健康診断、見事に引っかかり再検査です、あらやだ。しかし再検査に行くと、D-r.に「良すぎて健康診断に引っかかっちゃいましたね」「理想的な「コレステロール値」と有難いお言葉をいただき、ワンコインで安心を貰ってきました。良すぎて引っかかるなんてこともありますね。

そんな、私をはじめ一部の職員とメンバーさんの食生活を支えていたかれん工房の配食事業が三月末で終了しました。自炊だと中々食べるところがない野菜や魚料理。メンバーさんの中には配食で出たメニューをじ家庭でつくられた方も。少しづつ変わつて行く環境の中でも、前向きに一日一日を蕭々と過ごしておられるメンバーさんを見て、たくましさを感じています。あの手ごねハンバー

七月号では、前回から引き続き、京都光彩の会と繋がりのある外部の方に記事を依頼いたしました。第二回は瀬尾クリニックのソーシャルワーカー巖さんにご執筆いただきました。お忙しい中、素敵なお原稿をありがとうございました。

利用者と向き合い、寄り添い、共に考え、共に歩む そして誰もが人生の主役に



社会福祉法人 京都光彩の会

Social welfare corp KYOTO kosainokai.Inc

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1番地の20 COCO・てらす 4F

TEL : 075-323-3201 FAX : 075-323-3220
URL : <http://kyoto-kosainokai.jp>



社会福祉法人京都光彩の会 光彩だより
発行:京都光彩の会 広報委員会
発行責任者:中條 了
印刷:西山高原工作所